

「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2020年1月31日

所属： 国際資源学部 国際資源学科 4年

氏名：佐藤森樹

派遣先大学名(国) フィリピン大学ディリマン校(フィリピン)

在籍身分：交換留学生

派遣期間：2019年1月から2019年12月の約1年間

渡航年月日：2019年1月9日

帰国年月日：2019年12月20日

○派遣先大学における授業等の履修状況

(履修した講義名, 講義の履修期間, 週当たりの講義時間, 修得単位数などを確認できる成績表(写)等の添付)

SATO, SHINJU, SNR 201922283, Cross Registrant (Non-UP) Student
You are logged in as saato. [Logout](#)

Friday, 31 Jan 2020 1:00

Search Modules

Main

Home

Logout (saato)

Pre-Registration

Pre-enrollment

Student Profile

Dropping

Dropping

Financial Assistance

Tuition Loan Application

Student Records

Grades Viewing

Payment History

University Clearance

Student Evaluation of Teaching

SET Answering

View Grades

SATO, SHINJU,
2018-22283
CROSS REGISTRANT(NON-UP)

Second Semester AY 2018-2019

Tag	Class Code	Class	Instructor/s	Units	Grade	Date of Completion	Remarks
	47959	Anthro 123 THU	LUNA, JARED JONATHAN	3.0	2.50		
	47971	Anthro 161 WVF	ESTEBAN, ROLANDO	3.0	1.25		
SR	62262	Archaeo 2 WFR	PEÑA, JESSICA CECILIA	3.0	2.00		
	43569	SAS 1 THY	DIONISIO, JOSEPHINE	3.0	1.00		
				12.0	1.8075		100.00% of total units passed 0.00% of total units failed

Midyear Term 2019

Tag	Class Code	Class	Instructor/s	Units	Grade	Date of Completion	Remarks
SR	47959	Anthro 10 X1	CANO, JENNY RUTH	3.0	1.50		
				3.0	1.5000		100.00% of total units passed 0.00% of total units failed

First Semester AY 2019-2020

Tag	Class Code	Class	Instructor/s	Units	Grade	Date of Completion	Remarks
	47959	Anthro 179 THU	TAQUEBAN, EFENITA MAY	3.0	2.25		
	47962	Anthro 198 THR	LUNA, JARED JONATHAN	3.0	1.00		
SR	43566	Socio 10 THV2	PRESTO, ATHENA CHARANNE	3.0	INC		no final position paper
				9.0	1.6250		86.67% of total units passed 0.00% of total units failed 13.33% of total units INC

Subjects with Unresolved INC or 4.00

Subject	Units	Grade	Term Incurred
Socio 10 THV2	3.0	INC	First Semester AY 2019-2020

GWA per Program

Program	Total Units	GWA
Cross Registrant (Non-UP)	21.00	1.8429
Overall GWA	21.00	1.8429

RGEF and PE Subjects Passed

Category	Subjects	Count	Units
SR		0	0.0
SR	Archaeo 2, Anthro 10	2	6.0
SR		0	0.0

RGEF LEGENDS

SR	Arts and Humanities
SR	Social Sciences and Philosophy
SR	Math, Science, and Technology
SR	English Communication
SR	Philippine Studies
SR	PE

RGEF and GWA DISCLAIMER

While the GWA computation may be regarded as a basis for determining the student's scholastic standing, only the Curriculum Weighted Average (CWA) which is based on the student's degree program's curriculum, may be regarded as a basis for graduation. For an accurate computation of the CWA, the student should consult with the Student Records Evaluator (SRE) of his/her home college.

Some of the RGEF subjects taken may not necessarily be creditable to the student's curriculum. To determine which of the RGEF subjects are creditable, the student should consult with the Student Records Evaluator (SRE) of his/her home college.

○研究・学習概要及び今後の勉強計画

(受講した講義の内容, 留学したことを本学での卒業論文や将来に向けてどう活かしていくか等)

留学中は主に、人類学と社会学の授業を履修していました。受けた授業の主な内容は、フィリピンの民族誌、自己と社会について、考古学入門、フォークロア・フィリピンの民間伝承、ダンスの人類学的な研究、応用人類学でのフィールドワーク、現代フィリピン社会の問題といったものでした。また授業以外の期間には、ルソン島北部山岳地域コーディエラ地方における各部族の伝統文化が息づく小規模金鉱山コミュニティにおいて、文化人類学的フィールドワークを実施し、鉱山労働従事者とその家族の生活から多くの気づきを得ました。

今後、秋田大学での卒業論文のテーマとして留学中に調査した小規模金鉱山コミュニティを取り上げ、気づきをまとめる方針です。フィリピンで数多くの異文化に触れ、そのいくつかに深く浸かった今回の経験を生かして、将来は異文化により寛容で平和な社会の実現に貢献するべく努力していきたいと考えています。

○生活面について

(現地の学生との交流, 寮・下宿, 食生活, 習慣の違い・マナーなど)

現地の学生や他の留学生と友情を育てることが出来たことは、今回の留学において、私が最もその幸運に感謝していることの一つです。ほぼ毎日のように誰かと一緒に食事をしていましたし、それぞれの誕生日には互いの国の料理を作ってお祝いをするもありました。互いの味の好みや趣味や夢といったことの共通点や違いから、沢山の知的な刺激と新たな目標を得ました。

留学中は寮に滞在していました。南国情緒あふれる中庭には猫たちが戯れている心洗われる空間でした。

食事はお米が主食だったためか、幸いにも拒絶感なく毎日美味しく摂ることが出来ました。フィリピンではフィリピン料理のみならず、中華料理、アメリカ料理、韓国料理、スペイン料理そして日本料理といった各国の料理をどこでも簡単に見つけて食べる事が出来るので、食事に飽きることはありませんでした。

習慣やマナーの違いとして、留学の初めのころはフィリピン独自の乗合タクシーであるジプニーの乗り方に戸惑いました。乗車時に車体の側面に記された目的地を自分で発見して挙手にて停車させなければいけないということや、運賃を運転手に手渡しする際、乗車客が運転席から離れている場合は乗車客同士がバケツリレーのようにしてお金をやり取りすることなど、初体験のことが多かったため、戸惑いました。

○その他留学全般にわたる感想

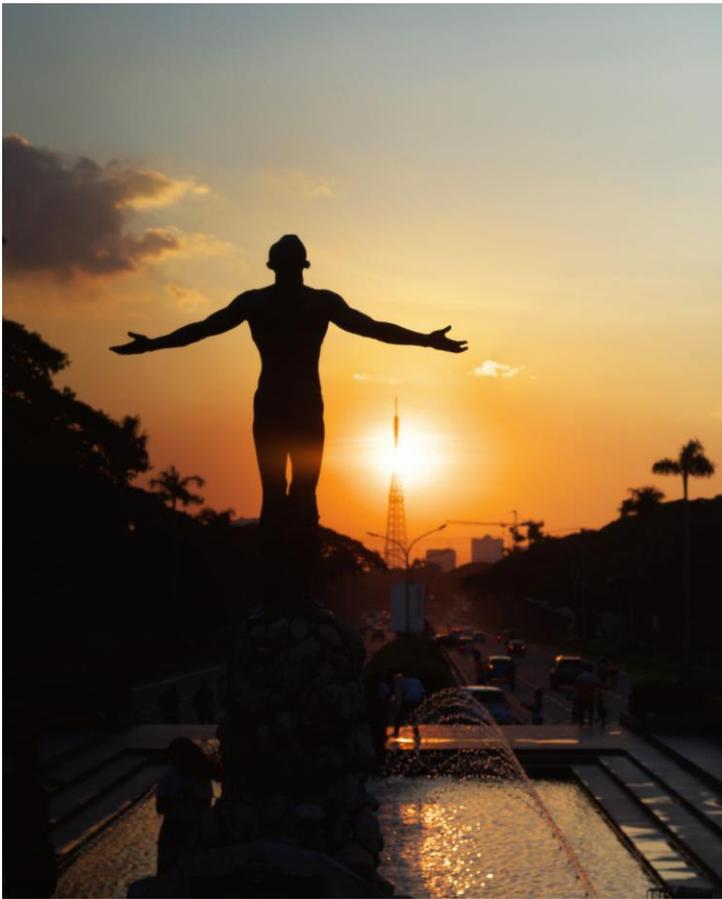


パラワン島のエルニドは、エメラルドグリーンの海が印象的な楽園でした。



魚たちが出迎えてくれるその海は、政府と地元住民の方々の手によって美しく保たれていました。

(様式 2)



フィリピン大学内にもたくさんの美しい場所がありました。上の写真は夕方の正門前です。写っているのは、理想のフィリピン大学生を象徴する Oblation と呼ばれる像のレプリカです。



フィリピン大学の卒業シーズンである 6 月には、キャンパス内に沢山の向日葵の花が咲き、卒業生を祝福します。

このようにフィリピンには数多くの美しい場所があると同時に、目を背けたくなくなるような貧困や犯罪が現存していることも確かです。フィリピンが今抱えている社会問題の中には、日本がかつて経た経緯をなぞるようなものもあれば、フィリピンならではの事情に由来する独自のものもあります。私が留学を経て得た大きな学びの一つは、自分と相手には違いがあるということを前提に、自分が納得できないことも含めて、相手への敬意を持って人と接していくことが大切だということです。相手への敬意があつてこそ、相手の立場に立って考え、問題解決のために行動することが出来るのだと思います。フィリピンがいつか、格差や争いのない国になるために、私もフィリピンへの敬意を抱いた上で行動していきたいと思います。

○渡航費補助について

今回の留学での全ての経験は、秋田大学みらい創造基金による渡航費補助があつたからこそ得られたものだと思います。基金に寄付をしてくださった方には本当に感謝しています。本当にありがとうございました。

今後、秋田大学生が留学にもっと関心を抱き、私が出られたような異文化からの学びを多くの方が得られるようになれば、秋田大学の将来の学習環境はさらに刺激的なものになると思います。私は今回の経験を他の学生にも伝え、これからの秋田大学をより魅力的な場所に押し上げていくような働きが出来るよう、力を尽くしてまいります。